

海外で印象に残った体験や考えを付箋に書いてみよう。どの国際理解教育の目標に当てはまる？

知識に関する概念目標

国際友好・平和

国際理解教育の究極の目標は、世界から戦争と争いをなくすことです。至難の業ではありますが、平和への強い決意を育てなくてはならない。

文化的多様性と共通性

文化の違い(多様性)の底に流れている「人間として共通性」に気づいて、はじめて異文化を尊敬できるのです。多様性は社会に豊かさをもたらす。

相互依存

グローバル化が進み、ヒト・モノ・カネの円滑な流れは重要です。ただ、利潤だけでなく、他国に貢献できる利他的な関係を相互依存と言います。

共生

「他者との共生」「環境との共生」「自己との共生」という3つの共生(佐藤郡衛)・関わりの中で、人はホリスティックに生きています。

公共性・正義

今、自分が生きている学校から広い社会に向けてしっかりと向き合い、正義を通し、発言し行動できる公共性を身につけなければならない。

持続可能性

このままで、持続可能なのかという問いかけです。SDGsの中でもESD(持続発展教育)の重要性がいよいよ増していきます。

民主主義

選挙権は18歳から、しかし政治への無関心は深刻な問題です。現実の政治について、小中学校段階の児童生徒に考えさせることは重要です。

思考力・判断力・表現力等の目標

偏見・差別・ステレオタイプを見抜く力

(批判的思考力)

偏見、差別、ステレオタイプは、根拠のない思考、誤った情報、安易な推測、論理の飛躍さらには受け売りやメディアのウソなど、私たちは押し寄せる情報から正しく思考し、的確に判断することが求められています。不合理な信念や思考のゆがみを正す必要があるのです。

コミュニケーション力

ただうまく話す能力ではなく、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力のことです。(文科省コミュニケーション教育推進会議)

課題解決能力

マニュアルや経験だけに頼るのではなく、新しいアイデアとビジョンで物事を分析し、課題を発見し、効率的に実行できる能力です。状況を分析し、正しく判断し、冷静に行動できる人間を育てることが重要です。

想像力・創造力

想像力は非論理的で感性的な能力と言えるでしょう。しかし、世界という大きく遠い対象に目を向けるには必要な能力です。また、他人事から当事者性への響感の力でもあります。そして、未知の世界を切り開いていくには、創造力が欠かせません。考えることから、行動へ押しやる原動力が創造力なのです。

教師として、指導観・教育観は変わりましたか。もし、変わったならば、帰国後どのように生かしていこうと思いますか

学びに向かう力・人間性に関する概念目標

人権意識

すべての人間は、その人らしく生きる権利があります。国際理解教育においても、その基盤となるものです。互いを人として尊敬します。

協力・助け合い・支えあい

人は一人では生きていけません。また、一人ではできないこともたくさんあります。孤立ではなく、他者や他の組織、他の国人々と協力・協調する精神が、争いや紛争から私たちを守るだけでなく、幸福や繁栄をもたらします。

寛容・共感・エポケー

個性や考えの違いから生まれる反感や軋轢、価値判断を一時停止する態度をエポケー(判断停止)と言います。そこから一歩進んで、他者を認め、理解しようとする態度が寛容です。相手の気持ちに寄り添う態度は共感です。

誇り・自尊心

自らの文化に誇りを持つことは大切です。自らの文化を誇りに思える人間は、異なる文化も尊敬できます。個人においても、自尊心があれば、他者に対しても尊敬の気持ちを持つことができます。自分を大切にできない人は、残念ながら他者も大切にできません。

行動・挑戦(チャレンジ)

考えているだけでなく、勇気をもって行動することは非常に重要です。新たな世界に踏み込んでいくこと、失敗を恐れず、粘り強くチャレンジすることで、新たな出会いが生まれ、よりよい社会を創造する意欲がかき立てられます。

グローバルな意識

全地球的な視野で国際的な課題やグローバルな課題をとらえ、発言と行動をうながす意識です。地球的な視野とは、世界とそこに住む人々、さらには生物や環境、資源などを地球という一つの閉じられた生態系の中で捉えると同時に、地球規模の歴史の流れの一部として「今」を理解しようとしています。